

第 8 回 IDS 開発学修士課程 (MPhil) について (その 2)

IDS のあるブライトンに来て、もう一年以上が経ちます。学部が終わってすぐに入った MPhil のコースも授業は残すところあと 1 タームになり、来る前に予想していた以上に時間が経つのが早かったと驚いています。

今回はサセックスにある開発関係のコースということで、IDS の MPhil in Development Studies を紹介したいと思います。

MPhil のコースは、イギリスではめずらしく二年のコースで、特に IDS のコースは理論に重きをおいていると言われていています。実際に去年から受けている授業を振り返ると、少し理論に偏りすぎ (!) な印象もありますが、広く浅く、開発に関わるいろいろな側面を体系的に学ぶにはよい場所だと思います。

さて、ではさっそく一年目ですが、まずこれまでのバックグラウンドに関わらず全員取るのが、Development: Theories and Issues、そして経済をやってきた人はその上に Sociology and Political Science for Development Studies という社会学のコースを取り、経済がままならない人は (笑)、Economics for Development Studies を取ります。これだけでももう十分忙しいのですが、さらに全員がこの上に、統計学の授業を取るようになっていて、社会学を取るようになった人も少なくとも一つ、実践的なコースを受けることになります。

それから次の春タームでは、Politics and Political Economy of Development という政治学の授業と、開発経済学の授業を受けます。経済を四年やってきている人と同じ授業を受けるのは、個人的には楽ではなかったですが、それぞれのペースに合わせて一人一人がやっていたので、逆にいい刺激になりました。そして一年目最後の夏タームでは、人類学の授業と、Research Method というコースを受けます。人類学はそれまでの授業と同じレクチャー形式でしたが、リサーチメソッドは、タームの半分を講義に使い、残りの半分は 6 人ほどのチームで実際にリサーチプロポーザルを練り、リサーチを行い、それをレポートにまとめる、という本格的なリサーチの経験をしました。この授業の評価は少し変わっていて、チームでやったリサーチの評価が全体の 40% を占め、それからその過程で自分が学んだことをまとめた Learning Diary が 20%、さらに個人で一つリサーチプロポーザルを別にかき、それが残りの 40% を占める、というものでした。この授業はそれまでで一番しんどい授業でしたが、チームメート (コースメート) から学ぶことの多さに気付いたよい授業でした。

さて、MPhil は二年ということで、通常一年で終わるイギリスの MA と違い、一年目の夏タームもこのように授業があります。その後、次の年も IDS に残るという利点を活かして、ほとんどの人がインターンに出かけます。IDS が主催している研究グループの現地のパートナー NGO に行ったり、個人で現地の NGO や、ドナーの機関に応募し、二ヶ月ほど実務経験を積みます。人によっては修士論文を見越して、リサーチをする人もいます。

そして次の10月から二年目の授業が始まります。二年目は、一年目と違い、それぞれの関心によって授業を選べるようになり、人によってはIDS以外のコースを取る人もたくさんいます。IDSではRules of Engagement in International Trade and Financeという授業と、Social Policy and Participation、そして、Agriculture and Developmentがあり、この中から通常二つ選択します。(一年目は全体的にコースが経済によっているのですが、二年目は取り方によっては社会学に近いアプローチを学ぶことも可能で、私自身は自分の興味に合わせて、よりフォーカスした内容を学べるようコース選びを考えました。)今はこのタームが終わり、来年早々の提出に向けてタームペーパーをやっているところです。来年の春タームは、IDSのMA in Governanceとjointのコースもあり、今終わったタームにも増してバラエティーが広がり、おもしろくなりそうです。

春タームが3月で終わると、その後はタームペーパーを4月に提出し、9月まで修士論文をやることになります。あっという間に一年が過ぎてしまったことを思うと、あとの9ヶ月がどれほど早いか、想像に難くありません。MPhilの利点の一つは、スパンが長いこと、というのは、特にイギリスでは実感するところですが、私自身は二年も、開発学を一通り理解するには本当に短いな、と感じているところです。

IDSはイギリスの中でも特に暖かい、海の街ブライトンにあり、授業は時としてタフではありますが、町全体がゆっくりしていて勉強には適したところです。もちろんIDSそのものがよい場所ではありますが、大学行きのバスに乗れば、英語を聞かないくらいdiversityのある街で、dynamicな生活ができること請け合いです。またいつか機会があれば、IDSとわず、ぜひこの海辺の街にも遊びに来て下さい。

2003年12月23日

開発学修士課程(MPhil 26期生) 南 留理子



ブライトンの海